

閉会挨拶

梶谷 文彦

医療技術産業戦略コンソーシアム 議長
川崎医療福祉大学 副学長、岡山大学 特命教授



本日は多数の方にご参加いただきまして、有難うございました。私も拝聴しましたが、非常に意義深いフォーラムだったと思います。皆様も貴重な情報を得られたのではないかと考えております。

プログラムコーディネーターの桐野先生、それから講演者・パネリストの松本先生、井原先生、樋口先生、本当に有難うございました。パネルディスカッションの進行を務められました読売新聞編集委員の前野氏にも深謝しております。素晴らしいディスカッションだったと思います。また、皆様から寄せられた質問にも明確なお答えをいただいたと思います。

実は、私は松本先生と同じ大学の出身で教室も一緒でしたが、ある先輩に忠告されたことがあります。“素晴らしい内容の講演の後のまとめはあまりしない方がよい。皆様それぞれが頭の中でよくまとめていращるわけだから、邪魔してはいけない”というものでした。まさに今日はその通りで、皆様が直接お聞きになったことを大切にしてください。そして、本日のフォーラムの内容は、読売新聞のヨミドクター (<http://www.yomidr.yomiuri.co.jp/>) で、再確認していただければと思います。

最近、医療のパラダイム（考え方）が変わってきていると言われています。たとえば、アメリカ国立衛生研究所（N

I H）では4つのPが付く単語の頭文字をまとめて“4P”と言っています。それは、Predictive、（予見的）医療、Preemptive（予防的）医療であり、そして、Personalized、すなわち患者さんそれぞれ個人に応じた医療、もう一つはParticipatory（参加型）医療です。つまり、これからの医療というのは、予見的、予防的、個別的、参加型なものに変わって行きます。今日の話題も4Pに関係したものが多かったように思います。

私は、日本医療機器産業連合会の荻野会長とともにMETIS（医療技術産業戦略コンソーシアム）の共同議長をしています。METISでは今、産官学（このうちの官は内閣府、厚労省、経産省、文科省）が共同して、国民の皆様に必要な医療機器の開発や普及の促進、迅速な医療の場への供給のための様々な活動をしています。METISのホームページ (http://www.jfmda.gr.jp/metis/002/002_03.html又は日本医療機器産業連合会と入力して「METIS」をクリック) もぜひ一度訪ねていただければと思います。

サーカスのセーフティーネットのように我々の健康を守り支えるのが医療そして医療機器です。METISも頑張りたいと思いますが、皆様の参加と応援がなければ決してうまくいきません。日本の医療機器産業に対する応援をよろしくお願いします。今日は有難うございました。